



## カンガルー作戦

豊田有恒  
徳間書店

(文庫・2/15刊・¥34)

著者の十八番である、タイム・パトロールものヴィンス・エレットシリーズの最新作である。前回の『ダイノサウルス作戦』では、恐龍人類との戦いが描かれた。さて今回は、哺乳類と並行して生存しており、あるいは人類に似たものを生み出したかもしれない有袋類——有袋人類との出会いが書かれている。

オーストラリア北辺のジャングルで、主人公秋野恵介はUFO同士の戦いを目撃する。

一方のUFOは、エヴェレットの乗機だった。偶然、エヴェレットと知り合った秋野らは、非人類の一人を捕虜にする。その捕虜には、松本零士の描く美女そっくりの、妖婉な美しさがあった。秋野は、その非人類の女性に、いつか引かれていく……。

『ダイノサウルス作戦』と、本書のテーマそのものは同じである。しかし、単一の未来を戦い合った前作と異なり、二つの時間線を許したところが、若干違うところか。進化史のドラマを扱う筆致には、さすがに手慣れたものを感じる。ただ、有袋人類の進化や現代社会、そして、なぜ現実には存在しない有袋人が生まれたのかなど、もう少し書き込みがあったらと思う。

(俊)